

きらきらして、他者に暖かさを伝える人間になるように  
 -自分・他者・社会の関係を考えて-

2011年1月30日

0、はじめに

本レポートは私が2010年秋学期「考えるための日本語 ことばの市民になる」を受講して、受講して何を感じたかについて書いたものだ。

受講したごろ、「個人がことばを使って社会に何かができるか」という本講義の概要を聞いても、自分のやりたいこと・自分のテーマとは何か分からなくて戸惑っていたのだ。それで、一学期の授業を受けていて、自分の興味関心から出発して自分のテーマを語る作業をやっていて、今の時点で何だか分かった気がする。その考えのプロセスを記録するつもりで、本レポートを書いたのだ。

レポートの構成として、第一節では興味関心と自分から述べ、興味関心という表面的な話から分析し始め、裏側にいる自分を探る。そして、自分の主張をまとめる。第二節では、自分の主張を確かめる・固めるため、インタビューを行う。ほかの人と話し合っ、自分の主張が変わったかどうかを述べる。第三節では、自分を振り返ってみて、その主張がどこから来たのかを探ってみる。第四節は結論になる。最後の、後書きの部分で、本講義の活動を振り返る。

1、興味関心から「私」をみる

私の興味関心は旅行・韓国ドラマを見ることだ。ある人はあるものに興味があるというのは、その興味からその人なりのことを楽しめると言えるだろう。では、私は興味関心から何を楽しんでいるのだろうか。先ず、興味関心の中で中心的な・根源的なもの、つまり私の追い求めているものを考えればよいと思う。図示で以下のようだ。

私の興味関心が旅行（山登り）・韓国ドラマ（普段生活に有り得ないストーリー）

↓①

興味関心から、「私が体験したことのない未知の世界を憧れている」ことが分かる

↓②

新しいものを受け入れたり、新しいテーマをクリアしたりして達成感を獲得したい

↓③

自身にいろんな不足あるから、常に達成感を得て自己更新して成長していきたい

↓④

常に更新・成長しつつ、「私」という人間の存在感・生きがいを確認したい

↓⑤

将来、自己成長の出来つつある生活・仕事・人生が望ましい

生活・仕事・人生の中で、もし自己成長が出来ないとしたら、そこにいる意味がないと私は思う。何も変わらないまま生活していると、つまらなくなるのではと思うから。それから、「成長」というのは、自分と自分との戦いでは、と考えている。つまり、成長が自己改善・自己更新のことだと思う。それで、私の主張・他者に発信したいメッセージは「仕事・人生がその人の成長の場になれば望ましい」とのことなのだ。

しかし、「成長」「自己更新」とはやはり漠然とした概念であり、私自身には何となく個

人的なイメージがあるものの、明確に口に出せないのだ。そして、「成長」は人によって、その中身・意味が違うと思う。人の定義はそれぞれなんだけど、他者の解釈を聞いてヒントがもらえるかもしれない。

## 2 他者との対話

「成長」について、自分なりの定義ができるように、他者との対話を通して一緒に検討しようと思う。対話の相手は素直に対話できる相手がいいと思うので、話しを深く出来そうな友達にしたいと思う。対話の概要は取りあえず以下のようだ。

- 対話相手：友達のVさん。台湾出身、30代、2010年10月から交換留学生として来日した。就職経験あり、半年間の米国留学経験ある。
- トピック：仕事・生活は個人の成長の場であるに対して、どう思うか。それから、現在ご自分のいるところについて、どう思うか。どう位置づけするのか。将来、何か計画・展望があるか。
- 対話のスケジュール：一回目の対話は12月1日、二回目は12月15日。
- 対話報告：対話の録音を文字に起こして、MLに流してみても、グループメンバーからコメントもらえるようにする。授業の時、一緒に対話の内容を検討してコメントをもらったらいと思う。

### 2.1 対話報告一回目（12月1日）

対話相手は友達のVさんだ。台湾出身、30代、2010年10月から交換留学生として来日した。大学院在籍、専門は商学。就職経験あり、半年間の米国留学経験ある。

対話の狙い：Vさんにとって、「仕事・生活は個人の成長の場だ」の観点をどう思うか。それから、現在ご自分のいるところについて、どう思うか。どう位置づけするのか。将来、何か計画・展望があるか。

簡単にインタビューの紹介をした後、Vさんと早速対話を始めた。場所は寮への帰り道だ。Sは私、VはVさん。対話は中国語で、一問一答の形式で行われた（以下は私のまとめ）

#### ① なぜ外国（アメリカ・日本）に行ったりしたのか。

V：同じところにいると思っている人もいるが、私は違うところへ行ったりそこでの生活を体験したりするほうが好きだ。外に出ることによって、その国で生活している人々の生活・国の制度も実体験できるし、自分の考えも更新させられる。もしずっと同じところにいると、自分のいる世界（国・人々・周りの環境）を客観的に寛容的にみることができると思う。例えば、「アメリカは生活が豊かで、国の制度もいいね。一方、台湾はちょっと。そして、台湾人がうるさい」と言われているが、実際にそこで生活してみると、「そうでもない、台湾もいいじゃん」と思うようになった。

一方、人は環境から影響されていて、と思う。それで、外国に行って、なぜその地域の人がそう思っているのか、理解できるようになるのでは、と思う。来日してきて、日本人に対する観点がいろいろ聞け、面白いと思う。

#### 感想

以上に述べたVさんの考えに対して、私は同感だ。自分の考えを広めるため、自分の目で確かめたりすることは重要だと思う。

#### ② 来日して、何かの収穫を望んでいるのか。

V：日本の社会には、ある隠れた文化があるのでは。例えば、ある集団にいて、もしほ

かの人と違うやり方をしたら、変わった目と見られてしまう、のようなこと。つまり、日本人は皆と同じとのことを大切にしていると思う。でも、私はほかの人と一緒にがいいやだ。

S: そか、私も一緒にいいやなのだ。例えば、皆そのスターが好きな時、別に大したものじゃないと私は思うのよ。って、Vさんは日本人の考えを知って、何をするつもりか。

V: 相手の考えをわかった上、自分で調整することができるのでは。相手の考えを理解した上で、自分の考えをも出す。相手とどのように進めばいいかとのことがわからないとね。

S: 私の考えを聞いてくれる? あることをやるには目的あると思う。仕事・場所・環境とは自分の成長の場ではないか、と思う。例えば、私はなぜ来日したかというと、来日する前やっていた仕事はもう自分を更新できないと気がしたのだから。仕事の内容が毎日同じだったので、そして将来性が見えなかったのだ。一方、来日して、自分の生きていた環境と違うところでいろいろ体験してみて、思わぬ収穫があるかもと思ってここに来たの。でも、成長って、どういう方向へ、どんな成長なのか、未だに明確ではないけど。

V: そうそう、私もそう思うの。私も就職したことがあってさ、でも、その仕事がちょっといやなの(その後、いろいろ話を教えてくれたが、やはり前の仕事に何が不満なのかわからないまま終わってしまった)

### 感想

Vさんの述べた来日体験を聞いて、Vさんの更新の場が人と関わる場でもあると気がついた。自分にとって一つの発見だと思う。私の考える「更新」はやはり「自己更新」であり、昔・現在・将来の自分という縦軸に注目していたのだが、更新する原因から言うと、その時点にいる周りの人・環境(つまり横軸)から受けた影響がかなり大きいと言えるだろう。あるコミュニティにおいて、人との関わりながら自己を更新させると言うようになった。そう考えると、コミュニティ・他者のことを無視するとだめと気がする。

しかし、誰と関わっても更新できるものではない。人間は必ずある方向を持って誰かと関わって更新するのではないか、それを確かめたいと思う。

### ③ 目を広めることを通して、何か影響あるのか。

Vさん: 現在の時点では、いい影響がないと思う。将来的には、多分就職にいいことをもたらすかも。例えば、新しい仕事・環境に速やかに慣れることとか。応変能力というか、企業は多分応募者にそれを要求すると思う。まあ、そんなに真剣に考えていないの。多分、ただ私が遊び好き、体験好きだからかも。

## 2.2 対話報告二回目(12月15日)

前回の話の続きとして、Vさんと二回目の対話を行った。

### ① 人生の目標は何?

S: 前回の話なんだけど、来日してここでの生活を体験してから、自分の中にある日本・日本関連のこともその次第に更新されるのよね。

V: そうだね。

S: ここに来て自分を更新させてから、またどこかへ行って何かを更新させて。。最後のところ、あのような人になりたいとか、考えているか。例えば、将来への展望とか、自分の人生像とか。

V: 別に考えてないわ。大学時代はいつもちゃんと計画しなきゃと思って、計画を立ててみたけど。結局、計画通りにうまく行くことはないとわかってきた。それで、別に計

画しなくてもいいと思うようになった。

#### 感想

Vさんには人生像がないの？ちょっと不思議に思う。絶対あると思うから、もっと聞いてみよう。

#### ② 理想的な生活・生き方は？

S：私なら、将来に何かイメージを持っているのだ。例えば、就職の際、自分の好き嫌いが一番、給料の面はその次。自分の好きなことが出来ないと、人生の最後の時、多分後悔するじゃ。自分の気持ちがわかるのは大事だと思おう。それから、どんな人になりたいかというと、「きらきら人間」になりたいの。他人に暖かさを感じさせる人間。。

(グループディスカッションのおかげで、その考えがまとめてきた)

V：仕事に対する考え方、私はちょっと違うわ。給料の面がかなり重要だと思う。お金はすべてじゃないけど、とても重要なことだと思う。例えば、お金の困っている家族に助けようとすれば、お金が必要になる。

S：そうだね。お金も一つの力だよ、特に人を助ける時。

V：まあ、理想的な人生と言えば、今の考えなんだけど。マイホームを持ち、いい仕事をしていて、仕事後、給料で人生を楽しめる。しかし、簡単に実現されるものじゃないと思うわ。台湾では就職がかなり厳しいから。

S：具体的に言えば？

V：仕事の場で競争が激しいし、そしてそこから給料をもらうから、かなりいろいろ要求され、我慢しなきゃならないことがあるさ。時々すごいストレスがたまると。だから、仕事後、マイホームで自分をリラックスさせたいの。そして、昔ずっと借家で住んでいて、不便なところがずいぶんあつし、引越しの面倒さもよくわかるから。

#### 感想

私の考えと違って、Vさんの理想生活像は現実に近いものと気がする。私の考えが抽象的で、本当に理想像にとどまっているのか、自分に疑問を考え始めた。

### 2.3 対話後の感想

Vさんと対話して、やはり自分の主張にはまだ明確になっていない部分があると思うようになった。そして、グループで対話報告をしたら、メンバーから「もし主張が明確になっていないなら、自分のことを振り返ってみたらいいかも」というアドバイスももらったのだ。何を言いたいか、やはり自分しかわからないから、自分のことを振り返ってみると、イメージがもっとはっきりになると思うので、過去のことを振り返ることにした。次の節はそれについて述べさせていただきたいと思う。

### 3 疑問点から私の過去を振り返って

Vさんと対話して、その成長・更新の道の中で、「他者との関わり」「社会環境」の要素も考慮しないといけないと気付かせられた。そして、グループディスカッションの中で、対話の中で、「きらきら人間」という私の人生像が出てきた。しかし、具体的に言うと、「きらきら」というのはどんなイメージなのか、なぜそう思ってきたのか、まだ不明なのだ。だから、自分の過去を振り返って、明確にしたいと思う。

今私の思う人生像をことばで表現すると、それは「きらきら人間」というイメージなのだ。「きらきら人間」を、ご自分のことがよく分かっている、そして楽しく生きていて、周りの人にも暖かさを与えている人間だと私が定義する。まだ漠然としたイメージだ

が、何となくこれだ！と感じる。それで、なぜ「きらきら人間」なのか、それを説明するには、またそのイメージをもっともっとはっきりさせるために、自分の過去を振り返ることも必要だろうと思う。

「きらきら人間」の要素として、①は暖かさを与えること、②は自分のことが分かることである。では、始めようと思う。

- ① 家では末っ子であり、姉が二人いる→姉がいるので、何かがあったら、姉がやってくれる→他者から支えられ、そのやさしさを感じていた→助けられた立場に立っていた私→人を助けるのは暖かい行為であり、困っている人を助ける強い人間になれるのでは、と思った→もらった分をいつかほかの人にあげたい、自分には強い人間になりたいと思うようになった→暖かさを与える強い人間になりたい
- ② 住宅地の小学校から地区の中学校へ、それから市の高校へ進学していた私→違うところで住んでいるクラスメートと出会い、面白い話が出来て楽しかった、そして、自分の地区に対する認識も人との出会いによって、広がっていくと考えた→高校から大学へ進学する際、実家と離れているところを希望校の一つにして、偶然ながらも、その希望校に行ってしまった→そこで友達を作ったり、生活したりして大学の四年間を送った→大学四年生になり、就職するかそれとも院生になるのか、迷っていた→就職って怖いなあ、何をやらいいか分からないから、取りあえず院生になってそのうち考えてみようと思った→何も考えれず三年間が経ち、大学院の卒業を迎えた→実家に戻って就職活動を始めた→給料・場所・仕事の内容を考え、市内にある外資企業で働くことにした→就職先へ不満がないが、仕事の内容が毎日同じで、このままで日々を送るのかという疑問が生じ、自分が何をやりたいのかと考え始めた→自分が結局何をやりたいのか、考えたこともないと気がついた。このままでは、きっと後悔するのではと思っていた→自分が何をやりたいのか、明確にしないと感じる→来日の機会があって、違う体験をして見たら、多分答えが出てくるのではと考え、来日してしまった→自分の考えを明確にしようと思っていた→自分の考えを明確にさせるには、何が必要だろうと考え始めた

そのように、「きらきら人間」の二つの要素が出来たのだ。

#### 4 結論

以上に述べたように、本レポートの始めでは、「人はことばを使って他者とコミュニケーションしながら、その場で使って生活・仕事・人生の中で、もし自己成長が出来ないとしたら、そこに意味がない」という私の考えを述べた。ある目標を持っていて、人は自分のやることを通して、成長・更新しつつ私は考えていた。その後、Vさんと対話して、その成長・更新の道の中で、「他者との関わり」「社会環境」の要素も考慮しないといけないと気付けさせられた。しかし、自分にとって、成長してどんな人になりたいか、まだぼんやりしていたようなので、過去のことを振り返ってみた。今、私の思う人生像をことばで表現すると、それは「きらきら人間」というイメージなのだ。他者とのかかわりの中で自分のことを意識しながら、人と人の間に暖かさを作り上げる人間ということだ。

この世に生きていて、自分のやりたいことがわかって、他者とコミュニケーションしながら、自分の望ましい社会を創り上げることはとても素晴らしいと思うようになった。

## 後書き

### ①今回の活動に対して

深い対話ができる活動だと思う。

深いとは、表面的な深くてわかりにくい話の意味ではなく、自分・他者のにある知らない一面が見えてきた感じなのだ。自分と他者と関わっていることを意識させながら、自分には一体どのように考えているのかも、自然に振り返っていくようになる。

そのような対話活動は私にとって何の意味があるのかというと、自分を知る、または他者を知るきっかけになると思うので、とても有意義であると思う。普段ではあまり出来ない話が出来て、人間の裏にある一面が見えるようになったと気がする。

### ②ことばの市民に対して

この活動と「ことばの市民」は、どのような関係にあるのかについて述べたいと思う。ことばというのは、人とコミュニケーションする時に使う「ことば」だと思う。ここでの「ことば」は単なる文字・言語というものでなく、自分からの発信メッセージの意味でもあると思う。つまり、個人の活動を通して、何のメッセージを他者・社会へ送ることなのだ。従って、私のことばでいうと、「ことばの市民」とは、自らの主張があって、人生像・社会像を持ちながら、他者・社会へ発信し、社会をよりよく改造しようとする人間のことを指すと思う。